太平洋空軍司令官、横田基地来訪

PACAF commander visits Team Yokota

August 17, 2016

by 374th Airlift Wing Public Affairs

テレンス・J・オショーネシー大将は８月７日から１０日にかけ、太平洋空軍司令官就任後、初めてのインド・アジア太平洋地域の米空軍基地の視察で、横田基地を訪問した。

訪問中、オショーネシー大将は横田基地の空兵を対象に招集会を開き、インド・アジア太平洋地域における横田の戦略的な役割について語った。

「日本との同盟の絆はかつてないほどに重要となっている。現在の地域治安情勢において、平和と安定を維持する航空兵力への期待は、空兵の力と同盟国に貢献できる力に直結している」と大将は述べた。

そして大将は、空兵たちが日本の人々に対してアメリカの大使であり続けることなど、幾つかの重要な懸念事項に触れた。

「空兵の行いは、日本との大切な関係に戦略的な影響を与える。日本のゲストとして、全ての空兵にいかなる時もプロ意識を持ち続けてもらいたい。強固な同盟を維持することで、脅威となりうるものを抑止できる」

オショーネシー大将は、もう一つの重要課題として即応態勢について触れた。「人道的支援、被災地救援、紛争など、いずれにおいても我々は出動命令を受けた際に即応できる態勢を持っていることが重要である。北朝鮮を含む北東アジアからの脅威は極めて現実的であり、朝鮮半島における即応態勢を整えていること、また同様に在日米軍の支援準備態勢も大事である」

そして最後に、太平洋空軍を指揮することの名誉に触れたほか「故郷を離れ日本に駐留している全ての空兵たちに感謝の言葉を述べたい」と謝意を述べた。

横田基地で開いた招集会にて
(Photo by Senior Airman Delano Scott)

航空自衛隊幹部と握手を交わすオショーネシー大将
(Photo by Staff Sgt. Michael Washburn)

３日間に渡る訪問中、オショーネシー大将は横田基地内の幾つかの施設を視察し、アメリカ大使館を訪れたほか、日本の主要リーダーと接見するため、航空自衛隊航空総隊司令部、防衛省を訪問した。